別記様式第8号（別記1の第6の1）

鳥獣被害防止総合支援事業の評価報告（平成27年度報告）

青森県

1　被害防止計画の作成数、特徴等

被害防止計画作成数は25計画で、そのうち9計画で鳥獣被害防止総合支援事業を実施した。

ニホンザルに対しては、生息頭数調査や箱わなによる捕獲などの「有害捕獲」、指導員の育成及びモンキードックによる追い払いの実施等の「被害防除」、緩衝帯の設置等による「生息環境整備」を組み合わせた取組のほか、ICT技術を活用し、GPS機能携帯端末を利用した行動域の追跡と効率的な追い払いや捕獲、ニホンザル用わなに加速度センサーやカメラを設置し、わなに入った時点でメールを送付することで効率的な捕獲活動が行えるシステムを活用した大量捕獲の実証試験を行っている。さらに農作物被害が大きい市町村では、電気柵の設置を継続実施している。被害防止対策の体制では、下北地域では、ニホンザルの効率的な被害対策を行うために4市町村の広域連携を行い、その他の地域ではそれぞれの市町村が単独で取り組んでいる状況である。

ツキノワグマ、ノウサギ、カルガモ、アライグマ、カラスやカモなどの鳥類に対しては、箱わな及び銃器による捕獲や追払い活動などを組合わせて実施した。

2　事業効果の発現状況

ニホンザルによる農作物被害対策として、外ヶ浜町、鰺ヶ沢町、深浦町、下北地域（広域）において、テレメトリ発信器を活用した行動域調査を実施しており、箱わな等の捕獲機材の導入と併せて効率的な捕獲が実施できた。

また、弘前市では、電気柵の設置により被害軽減につながっており、電気柵による被害防止効果が高かった。

さらに、鰺ヶ沢町、下北地域（広域）では、モンキードックを活用した追い払いを行っており、その効果は高いものがあるが、モンキードックを扱うハンドラーの高齢化等が課題でもある。

これらニホンザルの追い払いや電気柵の設置等の取組を行い、農作物の被害面積は、前年より減少したが、被害金額は単価の高い農作物への被害が発生したことなどから横ばいとなった。

カラス、カモ類等の鳥類による農作物被害対策として銃器による捕獲や追払い活動などを行っているが、被害面積、被害金額は増加した。

アライグマによる農作物被害対策として、箱わなによる捕獲活動などを行ったことにより、被害面積、被害金額ともに減少した。

ツキノワグマによる農作物被害対策として、箱わな及び銃器による捕獲活動などを行い、被害面積、被害金額ともに減少した。

市町村では、研修会等の開催や参加による鳥獣被害防止対策に関する知識や技術の向上などの人材育成に取組んでおり、鳥獣の捕獲体制整備は進展しているものの、近隣市町村との連携による効率的な被害防止対策の実施に課題が残る。

3　被害防止計画の目標達成状況

蓬田村：ニホンザルについて、　銃や電動ガンを使用した追い払い、箱わなによる捕獲を行った結果、被害面積は減少し目標を達成したものの、単価の高い農作物への加害が発生したことから被害金額は増加した。
対策を強化するため、ニホンザルの生息地域や出没地域の把握などの対策を行うとともに、引き続き銃器等による追払い及び箱わなによる捕獲の取組を強化して行く必要がある。

4　各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名（協議会名）	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	都道府県の評価
										被害金額（千円）			被害面積(ha)				
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率		
蓬田村鳥獣被害防止対策協議会	蓬田村	H25～H27	ニホンザル	・電動ガンによる追い払い H25,H26,H27 ・銃器等による追い払い H25,H26,H27 ・箱わなによる生息数調査及び追い払い H25,H26,H27	・電動ガン 3丁（H25,H26,H27） ・銃器及び箱ワナによる追い払い広瀬・高根地区で実施（H25,H26,H27）	蓬田村鳥獣被害防止対策協議会			電動ガン等を使用した追い払いは、ニホンザルが慣れてくると効果は落ちるものの一定の効果があった。 銃器による追い払いは被害対策実施隊を中心として実施し一定の効果があった。しかし、被害対策実施隊の高齢化等により、ニホンザルの出没に合わせた追い払いなどが不十分で、生態状況や出没地域の特定が課題となっている。 箱わなによって捕獲したニホンザルに、発信器を装着し、村内の生息状態を把握し被害防止に一定の効果は見受けられた。今後もより詳細な生息地域等の把握のためにも引き続き、箱わなによる捕獲等を行うことが重要である。	ニホンザル 94.5	153	−44%	0.35	0.05	300%	年々被害が拡大し、離農者も増加する中、電動ガン等による追い払いを継続的に行い、今後も適切な箱わなの設置などを実施し、生息地域や出没地域の把握を行う。 銃器による追い払いは効果が高く、今後も継続して実施していく。 課題としては、生息地域や出没地域の把握を再度行うことが重要と考えている。被害対策実施隊員として任命している猟友会などの会員数の減少等新たな課題もあるが、関係機関と協議を続け、地域一体で被害防止へ対応できる組織づくりを実施して行く。	ニホンザルの農作物被害は、箱わなによる捕獲を行った結果、被害面積は減少し目標を達成したものの、単価の高い農作物への被害が発生したことから被害金額は増加した。 隣接市町村でもニホンザルの個体数は増加傾向となっており、広域な範囲で移動していることも確認されていることから、今後とも、近隣市町村と連携した対策を強化しながら、継続的に被害防止対策を実施していく必要がある。

5　第三者の意見

鳥獣保護管理員　記田　慶市

農作物の鳥獣被害防止対策は、銃器による追い払いや捕殺が一番効果的だが、ニホンザルの出没に合わせてすぐに現場への出動駆除が困難な現状にある。

箱わな捕獲や発信器を装着したニホンザルの行動域を的確に把握し、事前に出没地域の農家と連携をとりながら、更には各種防止対策を組み合わせ、今後も農作物被害防止のため、住民による追い払い活動などの取組を継続的に実施し、猟友会などと密接に活動をしていくことが効果が期待できると思われる。